

キャンプ瑞慶覧内病院地区に係る文化財発掘調査報告書4

— 普天間古集落遺跡・普天間後原第二遺跡 —

平成29（2017）年3月

沖縄県立埋蔵文化財センター

序

本報告書は、沖縄県立埋蔵文化財センターが沖縄防衛局の委託を受け、平成 24(2012)年度～ 25(2013)年度に実施した、米軍の海軍病院建設に伴う普天間古集落遺跡・普天間後原第二遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。

本遺跡は、宜野湾市字普天間に所在し、普天満宮、普天満山神宮寺の西側に広がる遺跡です。旧普天間集落は、第二次世界大戦前には沖縄本島北部と南部を結ぶ交通の要所であるとともに、多くの公共施設が設置された重要な場所でした。また、各地から訪れる普天満宮及び普天満山神宮寺への参拝者により、常に賑わいを見せていました。

しかしながら、太平洋戦争末期に起きた沖縄戦によって、集落すべてが米軍に接収され、戦後はキャンプ瑞慶覧内の米軍住宅地区として使用されていました。

発掘調査の結果、縄文時代、グスク時代、近世～近代の遺構や遺物が確認されました。各時期の主な遺構として、縄文時代は深く掘り込まれた土坑、グスク時代では複数の建物跡が見つかりました。

本遺跡の主体を占める近世～近代においては、調査区全体に広がる溝跡が確認され、これまでの他地区の調査で確認された屋敷地などを区画すると考えられる溝跡と繋がることが判明しました。この成果は、当時の集落の様相を明らかにする上で重要な発見と言えます。

本報告書が、学術研究をはじめ、地域の文化・歴史学習などの資料として活用されるとともに、文化財保護の普及等の一助になれば幸いです。

最後となりましたが、現地調査及び資料整理にあたり、多大な御協力を賜りました宜野湾市教育委員会をはじめとした関係機関並びに関係各位に、心から厚く御礼申し上げます。

平成 29 (2017) 年 3 月

沖縄県立埋蔵文化財センター
所 長 金城 亀信



巻頭図版1 遺構完掘状況 X地区1地点（北から）



巻頭図版2 遺構完掘状況 上：X地区1地点（南から） 下：X地区3地点（北から）



巻頭図版3 遺構完掘状況 上：XI地区1・2地点（東から） 下：XI地区2地点（西から）



巻頭図版4 遺構完掘状況 上：XII地区1地点（南から） 下：XII地区2地点（東から）



巻頭図版5 縄文時代・グスク時代の遺構

上：X地区 SK308 半裁断面

下：X地区 SK4 カムイヤキ出土状況



巻頭図版 6 近世～近代の遺構

上：XI 地区 SK334 遺物出土状況

下：XI 地区 SK334 出土遺物

例 言

- 1 本報告書は、沖縄県宜野湾市字普天間（キャンプ瑞慶覧内）に所在する普天間古集落遺跡・普天間後原第二遺跡における米軍の海軍病院建設に伴う記録保存を目的とした緊急発掘調査の成果をまとめたものである。
- 2 本調査は、沖縄防衛局からの委託を受け、沖縄県立埋蔵文化財センターが平成 24 年度及び平成 25 年度に現地調査、平成 26～28 年度に資料整理を実施した。
- 3 本報告は平成 24 年度及び平成 25 年度調査分の約 12,010m²について行う。
- 4 地図データは、国土地理院の電子国土 Web システムから配信されたものを使用している。
- 5 航空写真は、宜野湾市教育委員会から提供を受けたものに加筆し、使用している。
- 6 本報告で使用している座標は、世界測地系の第 XV 系である。
- 7 土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局 監修「新版標準土色帖」を使用した。
- 8 本書の編集は、当センター職員の協力を得て、具志堅清大が行った。執筆は、下記以外は具志堅が行ったが、第 3 章第 5 節 2 は金城貴子、第 5 章第 2 節では宮城淳一の協力を得た。

南 勇輔 第 3 章第 3 節 2・第 4 節 2 土器・石器・カムイヤキ・滑石製品、遺物観察表
第 5 節 2 遺物観察表
太田樹也 第 3 章第 6 節 自然遺物
パリノ・サーヴェイ 第 4 章 自然科学分析
- 9 本書に掲載された写真撮影は、現地調査状況を知念隆博、金城貴子、具志堅清大が行い、遺物を領家範夫が行った。
- 10 現地調査で得られた遺物、実測図及び写真等の記録は、全て沖縄県立埋蔵文化財センターにて保管している。

目次

序

巻頭図版

例言

第1章 調査の経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査体制	1
第3節 発掘調査の経過	3
第4節 資料整理の経過	5
第2章 遺跡の位置と環境	7
第1節 遺跡の立地と地理的環境	7
第2節 歴史的環境	7
第3章 調査の方法と成果	11
第1節 調査の方法	11
第2節 基本層序	13
第3節 縄文時代	25
第1項 遺構	25
第2項 遺物	32
第4節 グスク時代	42
第1項 遺構	42
第2項 遺物	82
第5節 近世～近代	100
第1項 遺構	100
第2項 遺物	158
第6節 自然遺物	231
第4章 自然科学分析	245
第5章 総括	258
第1節 平成24・25年度調査成果	258
第2節 キャンプ瑞慶覧病院地区発掘調査成果のまとめ	261
参考文献	274
報告書抄録	277

目次

第1図 沖縄本島の位置	8	第46図 グスク時代 出土遺物 1	90
第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡	9	第47図 グスク時代 出土遺物 2	92
第3図 グリッド配置図	12	第48図 グスク時代 出土遺物 3	94
第4図 包含層(Ⅲ層)平面分布図	14	第49図 グスク時代 出土遺物 4	96
第5図 調査区壁面図(XI・XII地区)	15	第50図 グスク時代 出土遺物 5	98
第6図 調査区(I～XII地区)全体図1 所収範囲	17	第51図 近世～近代の遺構 1 全体図(X～XII地区)	100
第7図 調査区(I～XII地区)全体図2 縄文時代の遺構	19	第52図 近世～近代の遺構 2 区画35～39・道3 全体図(X地区)	101
第8図 調査区(I～XII地区)全体図3 グスク時代の遺構	21	第53図 近世～近代の遺構 3 区画35(X地区)	102
第9図 調査区(I～XII地区)全体図4 近世～近代の遺構	23	第54図 近世～近代の遺構 4 区画35全体図 (X地区)	103
第10図 縄文時代の遺構 1 (X地区2地点)	25	第55図 近世～近代の遺構 5 区画35(X地区)	104
第11図 縄文時代の遺構 2 (X地区2地点)	26	第56図 近世～近代の遺構 6 区画35(X地区)	105
第12図 縄文時代の遺構 3 全体図(X地区)	27	第57図 近世～近代の遺構 7 区画35・36 (X地区)	106
第13図 縄文時代の遺構 4 (X地区2地点)	28	第58図 近世～近代の遺構 8 区画36全体図 (X地区)	107
第14図 縄文時代の遺構 5 (X地区2・3地点)	29	第59図 近世～近代の遺構 9 区画36(X地区)	108
第15図 縄文時代の遺構 6 (X地区3地点)	30	第60図 近世～近代の遺構 10 区画36(X地区)	109
第16図 縄文時代の遺構 7 (X地区3地点)	31	第61図 近世～近代の遺構 11 区画37(X地区)	110
第17図 縄文時代 出土遺物 1	34	第62図 近世～近代の遺構 12 区画37・38全体図 (X地区)	111
第18図 縄文時代 出土遺物 2	36	第63図 近世～近代の遺構 13 区画37・38 (X地区)	112
第19図 縄文時代 出土遺物 3	38	第64図 近世～近代の遺構 14 区画38(X地区)	113
第20図 縄文時代 出土遺物 4	40	第65図 近世～近代の遺構 15 区画39(X地区)	114
第21図 グスク時代の遺構 1 全体図(X地区)	44	第66図 近世～近代の遺構 16 区画39全体図 (X地区)	115
第22図 グスク時代の遺構 2 全体図(X地区)分割①	45	第67図 近世～近代の遺構 17 区画39(X地区)	116
第23図 グスク時代の遺構 3 全体図(X地区)分割②	46	第68図 近世～近代の遺構 18 区画39(X地区)	117
第24図 グスク時代の遺構 4 全体図(X地区)分割③	47	第69図 近世～近代の遺構 19 区画39(X地区)	118
第25図 グスク時代の遺構 5 掘立柱建物跡(X地区)	48	第70図 近世～近代の遺構 20 区画39(X地区)	119
第26図 グスク時代の遺構 6 掘立柱建物跡(X地区)	49	第71図 近世～近代の遺構 21 区画40～45、道7・8 全体図(XI地区)	120
第27図 グスク時代の遺構 7 掘立柱建物跡(X地区)	50	第72図 近世～近代の遺構 22 区画40(XI地区)	121
第28図 グスク時代の遺構 8 掘立柱建物跡(X地区)	52	第73図 近世～近代の遺構 23 区画40(XI地区)	122
第29図 グスク時代の遺構 9 掘立柱建物跡(X地区)	53	第74図 近世～近代の遺構 24 区画40・41全体図 (XI地区)	123
第30図 グスク時代の遺構 10 掘立柱建物跡(X地区)	55	第75図 近世～近代の遺構 25 区画40(XI地区)	124
第31図 グスク時代の遺構 11 掘立柱建物跡(X地区)	56	第76図 近世～近代の遺構 26 区画40(XI地区)	125
第32図 グスク時代の遺構 12 掘立柱建物跡(X地区)	58	第77図 近世～近代の遺構 27 区画40(XI地区)	126
第33図 グスク時代の遺構 13 掘立柱建物跡(X地区)	60	第78図 近世～近代の遺構 28 区画40(XI地区)	127
第34図 グスク時代の遺構 14 掘立柱建物跡(X地区)	62	第79図 近世～近代の遺構 29 区画40(XI地区)	128
第35図 グスク時代の遺構 15 掘立柱建物跡(X地区)	64	第80図 近世～近代の遺構 30 区画40・41 (XI地区)	129
第36図 グスク時代の遺構 16 掘立柱建物跡(X地区)	65	第81図 近世～近代の遺構 31 区画42・43 (XI地区)	130
第37図 グスク時代の遺構 17 掘立柱建物跡(X地区)	66	第82図 近世～近代の遺構 32 区画42～45全体図	
第38図 グスク時代の遺構 18 掘立柱建物跡(X地区)	67		
第39図 グスク時代の遺構 19 掘立柱建物跡(X地区)	68		
第40図 グスク時代の遺構 20 掘立柱建物跡(X地区)	69		
第41図 グスク時代の遺構 21 柵列(X地区)	75		
第42図 グスク時代の遺構 22 土坑(X地区)	76		
第43図 グスク時代の遺構 23 全体図(XI地区)	77		
第44図 グスク時代の遺構 24 全体図(XII地区)	78		
第45図 グスク時代の遺構 25 全体図(XII地区)拡大	79		

(XI 地区)	131	第 106 図	円盤状製品サイズ別出土状況	162
第 83 図	近世～近代の遺構 33 区画 43 (XI 地区) ..	第 107 図	区画・道および遺構種別 遺物出土割合 ..	165
第 84 図	近世～近代の遺構 34 区画 44～46 全体図	第 108 図	SK334 本土産近代磁器 出土割合 (個体数)	165
(XII 地区)	133	第 109 図	近世～近代 1 区画 35 出土遺物 (X 地区)	176
第 85 図	近世～近代の遺構 35 区画 44 全体図	第 110 図	近世～近代 2 区画 36～39 出土遺物	
(XI・XII 地区)	134	(X 地区)	178	
第 86 図	近世～近代の遺構 36 区画 44 (XII 地区) ..	第 111 図	近世～近代 3 区画 39 出土遺物 (X 地区)	180
第 87 図	近世～近代の遺構 37 区画 44 (XI 地区) ..	第 112 図	近世～近代 4 区画 39・40 出土遺物	
第 88 図	近世～近代の遺構 38 区画 44 (XI 地区) ..	(X・XI 地区)	182	
第 89 図	近世～近代の遺構 39 区画 44 (XI 地区) ..	第 113 図	近世～近代 5 区画 40・44 出土遺物	
第 90 図	近世～近代の遺構 40 区画 44 (XI 地区) ..	(XI 地区)	184	
第 91 図	近世～近代の遺構 41 区画 45 (XI・XII 地区)	第 114 図	近世～近代 6 区画 44 出土遺物 (XI 地区)	186
第 92 図	近世～近代の遺構 42 区画 45 全体図	第 115 図	近世～近代 7 区画 45～46・道 7 出土遺物	
(XI・XII 地区)	141	(XI・XII 地区)	188	
第 93 図	近世～近代の遺構 43 区画 45 (XI・XII 地区)	第 116 図	近世～近代 8 道 7～8・I 層出土遺物	
第 94 図	近世～近代の遺構 44 区画 45 (XII 地区) ..	(XI・XII 地区)	190	
第 95 図	近世～近代の遺構 45 区画 46 (XII 地区) ..	第 117 図	遺構別検出状況 (巻貝)	231
第 96 図	近世～近代の遺構 46 区画 46 全体図	第 118 図	遺構別検出状況 (二枚貝)	231
(XII 地区)	145	第 119 図	貝類区画別出土状況	231
第 97 図	近世～近代の遺構 47 道 3 (X 地区)	第 120 図	生息地組成図	231
第 98 図	近世～近代の遺構 48 道 3 全体図 (X 地区)	第 121 図	区画別検出状況	234
第 99 図	近世～近代の遺構 49 道 7・第 1 面全体図	第 122 図	遺構別検出状況	234
(XI 地区)	148	第 123 図	縄文時代の遺構分布図 (I～XII 地区)	264
第 100 図	近世～近代の遺構 50 道 7・第 1 面	第 124 図	グスク時代の遺構分布図 (I～XII 地区) ..	265
(XI 地区)	149	第 125 図	グスク時代の遺構分布図	
第 101 図	近世～近代の遺構 51 道 7・第 1 面	(県教委・市教委調査区)	266	
(XI 地区)	150	第 126 図	普天間後原第二遺跡 掘立柱建物跡分布図	
第 102 図	近世～近代の遺構 52 道 7・第 1 面	(県教委・市教委調査区)	267	
(XI 地区)	151	第 127 図	戦前の普天間集落内道路	270
第 103 図	近世～近代の遺構 53 道 7・第 2 面	第 128 図	戦前の道路・鉄道路線	270
(XI 地区)	154	第 129 図	近世～近代の区画・道跡 (I～XII 地区) ..	270
第 104 図	近世～近代の遺構 54 道 7・第 2 面、道 8	第 130 図	区画 1～46 遺物出土状況	271
全体図 (XI 地区)	155	第 131 図	道 1～9 遺物出土状況	271
第 105 図	近世～近代の遺構 55 道 7・第 2 面、道 8	第 132 図	昭和 20 年普天間屋号図と調査区	273
(XI 地区)	157			

図版目次

巻頭図版 1	遺構完掘状況 X 地区 1 地点 (北から)	巻頭図版 6	近世～近代の遺構
巻頭図版 2	遺構完掘状況 上: X 地区 1 地点 (南から)		上: XI 地区 SK334 遺物出土状況
	下: X 地区 3 地点 (北から)		下: XI 地区 SK334 出土遺物
巻頭図版 3	遺構完掘状況 上: XI 地区 1・2 地点 (東から)		
	下: XI 地区 2 地点 (西から)	図版 1	発掘調査・資料整理状況 1
巻頭図版 4	遺構完掘状況 上: XII 地区 1 地点 (南から)	図版 2	発掘調査・資料整理状況 2
	下: XII 地区 2 地点 (東から)	図版 3	キャンプ瑞慶覧内病院地区遺跡範囲図
巻頭図版 5	縄文時代・グスク時代の遺構	図版 4	調査区壁面 (XI・XII 地区)
	上: X 地区 SK308 半裁断面	図版 5	縄文時代 出土遺物 1
	下: X 地区 SK4 カムイヤキ出土状況	図版 6	縄文時代 出土遺物 2
			5
			6
			10
			16
			35
			37

図版 7	縄文時代 出土遺物 3	39	(XI・XII 地区)	189
図版 8	縄文時代 出土遺物 4	41	図版 37	近世～近代 8 道 7～8・I 層出土遺物
図版 9	グスク時代の遺構 1 掘立柱建物跡 (X 地区)	51	(XI・XII 地区)	191
図版 10	グスク時代の遺構 2 掘立柱建物跡 (X 地区)	54	図版 38	近世～近代 9 区画 35～38 出土遺物
図版 11	グスク時代の遺構 3 掘立柱建物跡 (X 地区)	57	(X 地区)	192
図版 12	グスク時代の遺構 4 掘立柱建物跡 (X 地区)	59	図版 39	近世～近代 10 区画 37～39 出土遺物
図版 13	グスク時代の遺構 5 掘立柱建物跡 (X 地区)	61	(X 地区)	193
図版 14	グスク時代の遺構 6 掘立柱建物跡 (X 地区)	63	図版 40	近世～近代 11 区画 39 出土遺物 (X 地区)
図版 15	グスク時代の遺構 7 掘立柱建物跡 (X 地区)	70	図版 41	近世～近代 12 区画 39 出土遺物 (X 地区)
図版 16	グスク時代の遺構 8 掘立柱建物跡 (X 地区)	71	図版 42	近世～近代 13 区画 39～40 出土遺物
図版 17	グスク時代の遺構 9 掘立柱建物跡 (X 地区)	72	(X・XI 地区)	196
図版 18	グスク時代の遺構 10 掘立柱建物跡 (X 地区)	73	図版 43	近世～近代 14 区画 40 出土遺物 (XI 地区)
図版 19	グスク時代の遺構 11 柵列 (X 地区)	74	図版 44	近世～近代 15 区画 40・43 出土遺物
図版 20	グスク時代の遺構 12 (XI・XII 地区)	80	(XI 地区)	198
図版 21	グスク時代の遺構 13 (XI・XII 地区)	81	図版 45	近世～近代 16 区画 44 出土遺物 (XI 地区)
図版 22	グスク時代 出土遺物 1	91	図版 46	近世～近代 17 区画 44 出土遺物 (XI 地区)
図版 23	グスク時代 出土遺物 2	93	図版 47	近世～近代 18 区画 44～45・道 3・7 出土遺物
図版 24	グスク時代 出土遺物 3	95	(X～XII 地区)	201
図版 25	グスク時代 出土遺物 4	97	図版 48	近世～近代 19 道 7 出土遺物 (XI 地区)
図版 26	グスク時代 出土遺物 5	99	図版 49	近世～近代 20 道 7・8・I 層出土遺物
図版 27	近世～近代の遺構 1 道 7・第 1 面 (XI 地区)	152	(X～XI 地区)	203
図版 28	近世～近代の遺構 2 道 7・第 1 面 (XI 地区)	153	図版 50	近世～近代 21 I 層出土遺物
図版 29	近世～近代の遺構 3 道 7・第 2 面 (XI 地区)	156	図版 51	貝類遺体 1 (巻貝)
図版 30	近世～近代 1 区画 35 出土遺物 (X 地区)	177	図版 52	貝類遺体 2 (二枚貝)
図版 31	近世～近代 2 区画 36～39 出土遺物	179	図版 53	脊椎動物遺体 1
(X 地区)	179	図版 54	脊椎動物遺体 2	
図版 32	近世～近代 3 区画 39 出土遺物 (X 地区)	181	図版 55	炭化葉・炭化種実
図版 33	近世～近代 4 区画 39・40 出土遺物	183	図版 56	花粉化石・植物珪酸体
(X・XI 地区)	183	図版 57	炭化材 (1)	
図版 34	近世～近代 5 区画 40・44 出土遺物 (XI 地区)	185	図版 58	炭化材 (2)
図版 35	近世～近代 6 区画 44 出土遺物 (XI 地区)	187	図版 59	昭和 20 年撮影航空写真と調査区
図版 36	近世～近代 7 区画 45～46・道 7 出土遺物			272

表目次

第 1 表	縄文時代の遺構 遺物出土状況	33	第 9 表	グスク時代 出土遺物観察一覧 a	88
第 2 表	縄文時代 出土遺物観察一覧	33	第 10 表	グスク時代 出土遺物観察一覧 b	89
第 3 表	掘立柱建物跡・柵列一覧 (X 地区)	43	第 11 表	位牌札の銘	163
第 4 表	掘立柱建物跡一覧	43	第 12 表	近世～近代 出土遺物観察一覧 a	166
(I～IX 地区・過年度報告遺構)	43	第 13 表	近世～近代 出土遺物観察一覧 b	167	
第 5 表	グスク時代の遺構及び包含層 (Ⅲ・Ⅳ層) 遺物出土状況 (X・XI・XII 地区) a	84	第 14 表	近世～近代 出土遺物観察一覧 c	168
第 6 表	グスク時代の遺構及び包含層 (Ⅲ・Ⅳ層) 遺物出土状況 (X・XI・XII 地区) b	85	第 15 表	近世～近代 出土遺物観察一覧 d	169
第 7 表	グスク時代の遺構及び包含層 (Ⅲ・Ⅳ層) 遺物出土状況 (X・XI・XII 地区) c	86	第 16 表	近世～近代 出土遺物観察一覧 e	170
第 8 表	グスク時代の遺構及び包含層 (Ⅲ・Ⅳ層) 遺物出土状況 (X・XI・XII 地区) d	87	第 17 表	近世～近代 出土遺物観察一覧 f	171
			第 18 表	近世～近代 出土遺物観察一覧 g	172
			第 19 表	近世～近代 出土遺物観察一覧 h	173
			第 20 表	近世～近代 出土遺物観察一覧 i	174
			第 21 表	近世～近代 出土遺物観察一覧 j	175

第 22 表 近世～近代の遺構 遺物出土状況 (X 地区) 1	205	第 45 表 煙管集計表	225
第 23 表 近世～近代の遺構 遺物出土状況 (X 地区) 2	206	第 46 表 銭貨集計表	225
第 24 表 近世～近代の遺構 遺物出土状況 (XI 地区) 1	207	第 47 表 青銅製品集計表	226
第 25 表 近世～近代の遺構 遺物出土状況 (XI 地区) 2	208	第 48 表 鉄製品集計表	226
第 26 表 近世～近代の遺構 遺物出土状況 (XII 地区)	208	第 49 表 明朝系瓦集計表 1	227
第 27 表 中国産青磁集計表	209	第 50 表 明朝系瓦集計表 2	228
第 28 表 中国産白磁集計表	209	第 51 表 木製品集計表	229
第 29 表 青磁染付・褐釉染付・中国産褐釉磁器・ 色絵・瑠璃釉・三彩・中国産褐釉陶器・タイ産褐釉・東南ア ジア産陶器・産地不明陶器集計表	209	第 52 表 貝・骨製品集計表	229
第 30 表 中国産染付集計表 1	210	第 53 表 石材集計表	229
第 31 表 中国産染付集計表 2	211	第 54 表 その他遺物集計表	230
第 32 表 本土産陶磁器集計表	212	第 55 表 貝類生息場所類型表	231
第 33 表 瓦質土器集計表	212	第 56 表 貝類遺体集計表 1	237
第 34 表 カムイヤキ集計表	212	第 57 表 貝類遺体集計表 2	239
第 35 表 本土産近代陶磁器集計表	213	第 58 表 脊椎動物遺体集計表 1	241
第 36 表 沖縄産施釉陶器集計表 1	215	第 59 表 脊椎動物遺体集計表 2	243
第 37 表 沖縄産施釉陶器集計表 2	217	第 60 表 分析試料および分析項目一覧	245
第 38 表 沖縄産施釉陶器集計表 3	219	第 61 表 放射性炭素年代測定結果	248
第 39 表 沖縄産無釉陶器集計表 1	221	第 62 表 暦年較正結果	248
第 40 表 沖縄産無釉陶器集計表 2	222	第 63 表 微細物分析結果	249
第 41 表 陶質土器集計表	223	第 64 表 花粉分析結果	249
第 42 表 土器集計表	224	第 65 表 植物珪酸体含量	250
第 43 表 石器・石製品集計表	224	第 66 表 炭化材同定結果	250
第 44 表 円盤状製品集計表	225	第 67 表 灰像分析結果	250
		第 68 表 キャンプ瑞慶覧内病院地区発掘調査一覧 (県教委調査)	262
		第 69 表 縄文時代の遺構一覧	263
		第 70 表 本遺跡及び周辺遺跡遺物出土状況	265
		第 71 表 近世～近代建物跡一覧	270
		第 72 表 X～XII 地区 遺物集計表	276

〈付属 CD 所収データ一覧〉

第 6 図 調査区 (I～XII 地区) 全体図 1	所収範囲
第 7 図 調査区 (I～XII 地区) 全体図 2	縄文時代の遺構
第 8 図 調査区 (I～XII 地区) 全体図 3	グスク時代の遺構
第 9 図 調査区 (I～XII 地区) 全体図 4	近世～近代の遺構
第 1 表 縄文時代	遺物出土状況
第 5～8 表	グスク時代の遺構及び包含層 (Ⅲ・Ⅳ層) 遺物出土状況 (X・XI・XII 地区)
第 22～26 表	近世～近代の遺構 遺物出土状況 (X～XII 地区)
第 27～54 表	近世～近代 遺物集計表
第 56～57 表	貝類遺体集計表
第 58～59 表	脊椎動物遺体集計表
第 72 表	X～XII 地区 遺物集計表

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

平成8年12月の沖縄に関する特別行動委員会（SACO）の最終報告にて、キャンプ桑江内の海軍病院をキャンプ瑞慶覧内に移設することが合意され、海軍病院の移設候補地として、普天満宮西側の米軍住宅地域が挙げられた。平成10年に沖縄県教育委員会（以下、県教委）により、18箇所の試掘調査を行った結果、広く普天間古集落遺跡、普天間石川原遺跡が確認された。その後、県教委及び宜野湾市教育委員会（以下、市教委）により平成16～19年度（市教委は平成17～18年度）に海軍病院建設予定地全域の試掘調査を実施し、広範囲で周知の埋蔵文化財包蔵地と古墓を確認した。平成20年3月28日付けで、沖縄防衛局、県教委、市教委の3者で「協定書」を交わし、平成20年度から、海軍病院建設に伴う記録保存調査が県教委及び市教委により行われることとなった。

発掘調査は、平成20年度に病院本体範囲から着手した。その後、関連施設等の工事にかかる範囲の調査を行い、平成25年度で瑞慶覧病院地区の発掘調査は終了した。平成26～27年度には、平成20～23年度の調査成果をまとめ、報告している（沖縄県立埋蔵文化財センター2015a、2015b、2016）。本報告では、平成24～25年度の調査成果を報告する。

平成24年度 平成24年6月1日付けで沖縄防衛局と県教委は契約を締結し、平成24年8月29日から発掘調査を実施した。調査終了後は、平成25年3月28日付けで終了報告を行い、平成25年4月11日付けで県教育長より宜野湾警察署長へ埋蔵文化財発見の通知を行った。

平成25年度 平成25年7月24日付けで契約を締結し、平成25年9月12日から発掘調査を実施した。調査終了後には平成26年2月12日付けで終了報告を行うとともに、平成26年2月17日付けで県教育長より宜野湾警察署長へ埋蔵文化財発見の通知を行った。

平成26～28年度 平成26年度には協定書第8条第2項に基づく沖縄防衛局、県教委、市教委の3者による調整を経て、平成26年11月21日付けで「覚書」が締結され、資料整理が平成28年末まで期間が延長となった。平成26～28年度は報告書刊行のため沖縄防衛局との契約を締結し、資料整理作業を実施した。

大規模面積の発掘調査に係る届出 沖縄県内で大規模な面積の発掘調査を実施する際、調査面積（土置き場を含めた裸地面積）が1000㎡を超える場合は、沖縄県赤土等流出防止条例に基づく届出が必要となる。キャンプ瑞慶覧病院地区においては、平成21年度までは沖縄防衛局から届出がなされていたが、平成22年度からは各事業行為者による届出を行うこととなったため、平成22年度以降は沖縄県立埋蔵文化財センターから中部福祉保健所へ届出を行った。濁水が調査区外へ流出しないよう調査区及び土置き場の周囲に小堤を設置するとともに、残土には侵食防止剤吹き付けなどの対策を行った。

また、調査面積が3000㎡以上となる場合は、土壌汚染対策法に基づく「一定規模以上の土地の形質の変更届出」が必要となるが、既に沖縄防衛局から届出がなされていたことから、上述の沖縄県赤土等流出対策条例に基づく届出とともに報告を行った。

第2節 調査体制

本報告の普天間古集落遺跡・普天間後原第二遺跡の発掘調査は、平成24・25年度に現地での発掘作業、平成26～28年度にかけて資料整理及び報告書作成を行った。実施体制は以下のとおりである。

事業主体 沖縄県教育委員会

教育長 大城 浩（平成24年度）、諸見里 明（平成25～27年度）、平敷昭人（平成28年度）

事業所管 沖縄県教育庁文化財課

課長 長堂嘉一郎（平成24年度）、新垣悦男（平成25年度）、嘉数卓（参事兼課長：平成26年度）、萩尾俊章（平成27～28年度）

副参事 島袋洋（平成24年度）

記念物班長 盛本勲（平成24～25年度）、金城亀信（平成26年度、副参事兼班長：平成27年度）、上地博（平成28年度）

担当 長嶺均（主任専門員：平成24～27年度）、知念隆博（主任専門員：平成26年度）、神村智子（指導主事：平成28年度）

事業実施 沖縄県立埋蔵文化財センター

所長 崎濱文秀（平成24年度）、下地英輝（平成25～27年度）、金城亀信（平成28年度）

副参事 島袋洋（平成25～26年度）、盛本勲（平成27年度）、濱口寿夫（平成28年度）

総務班長 萩堂治邦（平成24年度）、新垣勝弘（平成25～27年度）、比嘉智博（平成28年度）

担当 西島康二（主査：平成24～25年度）、比嘉睦（主任：平成26年度、主査：平成27年度）、新里靖（主査：平成27～28年度）

調査班長 金城亀信（調査班長：平成24～25年度）、盛本勲（平成26年度）、上地博（平成27年度）、仲座久宜（平成28年度）

担当 知念隆博（主任専門員：平成24～25年度）、金城貴子（専門員：平成24年度、主任：平成25～27年度）、具志堅清大（専門員（臨任）：平成24年度、専門員：平成25～26年度、主任：平成28年度）、南勇輔（専門員：平成28年度）

文化財調査嘱託員（平成24～27年度）・史跡埋蔵文化財調査員（平成28年度）

新垣有一郎、伊藝由希、池原悠貴、井上奈々、岩元さつき、内間真吾、太田樹也、大屋匡史、奥平大貴、翁長佳乃子、幸地千明、崎原盛俊、新屋敷小春、杉山千曜、玉城綾、田村薫、小橋川里江、仲程勝哉、仲嶺真太、波木基真、比嘉優子、又吉幸嗣、宮里知恵、山城勝

埋蔵文化財資料整理嘱託員（平成24～27年度）・埋蔵文化財資料整理員（平成28年度）

赤嶺恵子、赤嶺雅子、安里綾子、新垣裕子、新垣利津代、有光綾子、糸数永子、伊藝由希、石橋英子、市川里恵、殷 兪平、上原作美、上原園子、小渡直子、喜屋武朋子、金城礼子、久貝裕子、具志みどり、久保田有美、幸地麻美、崎原美智子、後田多昌代、城間彩香、城間千鶴子、島袋久美子、鈴木友璃子、平良貴子、高橋弘治、田中章子、玉城実子、玉那覇美野、知花香織、津多 恵、津波古彩乃、手嶋永子、照屋芳美、當真香、當山哲也、徳本加代子、仲里由利、仲間文香、西原健二、比嘉登美子、比嘉なおみ、東仲千夏、譜久村泰子、又吉純子、又吉利文、嶺井多津美、嶺井幸恵、宮城かの子、宮城友香、目島直美、屋我尚子、矢舟章浩、山川美織、山城美奈、山城由紀子、與儀みなみ、領家範夫、渡邊愛依

事務補助員・資料整理作業員（平成24～28年度）

安里綾子、酒井若葉、下里利美、下地麻利恵、砂川美樹、髙原美千代、立津尚美、玉那覇美野、知花香織、當真 香、仲松安花奈、仲村綾乃、名幸さと子、花城咲子、普天間しげ美、又吉 淳、松田仁美、宮城綾子、安井美和

業務委託 発掘調査支援業務 (株)アーキジオ・(株)文化財サービス (平成24年度)
 (株)島田組 (平成25年度)
 遺物保存所理 (株)文化財サービス (平成25年度)
 自然科学分析 パリノ・サーヴェイ(株) (平成28年度)

調査指導及び協力者 (所属等は当時)

近江俊秀 (文化庁文化財部記念物課)、呉屋義勝・吉村純・仲村健・森田直哉・伊藤圭・宮城淳一・
 亀島慎吾 (宜野湾市教育委員会)、半澤武彦 (岩手県教育委員会)、宮城弘樹・稲福政斉 (沖
 縄国際大学)、金城聡子・岡本亜紀 (浦添市美術館)、丸山真史 (東海大学)、櫻木晋一 (下
 関市立大学)、野崎拓司 (喜界町教育委員会)

第3節 発掘調査の経過

X地区～XII地区の発掘調査経過について、地区ごとに日誌抄でまとめる。

X地区

現地調査は平成24年8月29日から平成25年3月28日まで行った。調査は、1地点(14-B15・C14
 ～15・D14～15、15-B1・C1・D1)、2地点(14-D13～15・E13～15・F14～15)、3地点(14-E15・
 F15、15-E1～2・F1～2・G1～2・H1～3、I1～3)、4地点(14-G15・H15・I15、15-H1・I
 1)、5地点(14-I15、15-I1)の5つの地点に分けて実施した。調査面積は4,700㎡である。経過につい
 ては以下に概略を記す。

平成24年

8月：事前に基準点測量と調査区の位置出し作業を行い、13日より磁気探査を実施するとともに、調
 査区にかかる樹木の伐採を行った。29日から1地点の表土掘削を行う。
 9月：1地点の表土掘削を継続する。2地点の表土掘削は12日から開始した。1地点の磁気探査により
 異常が無いことが確認された範囲から、遺構検出作業を開始する。
 10月：11日に1地点及び2地点の遺構検出写真撮影を行う。グスク時代のピットを多く確認する。翌
 12日より、1地点の北側から遺構掘削を開始する。30日からは2地点の遺構掘削を開始する。グス
 ク時代の掘立柱建物跡プランを検討しながら、ピットの半裁作業を行った。
 11月：引き続き1地点及び2地点の遺構掘削を行う。6日から3地点の表土掘削を北側から開始する。
 12日から3地点中央から南側に置かれていた残土が搬出された事から、磁気探査を開始する。
 12月：3地点の表土掘削を継続して行う。1・2地点は、遺構掘削を継続し、7日から1地点の遺構完
 掘作業を開始し、20日に遺構完掘写真撮影を行う。20日から2地点の遺構完掘作業を開始し、27
 日に遺構完掘写真撮影を行う。27日に3地点北側から遺構検出作業を開始し、年内の作業を終了した。

平成25年

1月：4日より調査再開する。3地点の遺構検出作業を継続して行い、24日に遺構検出写真撮影を行う。
 25日から3地点の遺構掘削を北側から開始する。2地点の大型土坑については、遺構深度が1mを
 超えており人力での掘削が困難と判断し、重機による断割を行い、記録作業を行った。
 2月：引き続き3地点の遺構掘削作業を行う。5日から4地点の表土掘削を開始し、7日から遺構検出作
 業を開始する。また7日から5地点の表土掘削を開始し、8日から遺構検出作業を開始する。13日
 に4地点及び5地点の遺構検出写真撮影を行う。26日から4地点及び5地点の遺構掘削を開始する。
 3月：13日に3地点、14日に4地点及び5地点の遺構完掘写真撮影を行う。15日からは残務として、
 3地点の土坑及び井戸を重機による断割を行い、記録作業を行った。28日に全ての調査が終了し、
 29日に現場撤収をもって調査完了となった。

XI 地区

現地調査は平成24年8月30日から平成25年2月13日まで行った。調査は、1地点(15-N 5～7・O 5～8、22-A 5～8・B 7～8)、2地点:(15-O 8、22-A 8～11・B 8～11・C10～11)の2つの地点に分けて実施した。調査面積は3,310㎡である。経過については以下に概略を記す。

平成24年

- 8月:事前に基準点測量・調査区の位置出し作業を行い、22日から磁気探査作業を開始するとともに、アスファルト・コンクリート部分の撤去作業を行った。30日から1地点の表土掘削を行う。
- 9月:1地点の表土掘削を継続する。磁気探査では異常はなく、1地点北側から遺構検出作業を開始する。SF1の検出作業では、東西に延びる側溝と、細かな礫により硬化した路面を確認した。27日に1地点1面目の遺構検出写真撮影を行う。
- 10月:遺構掘削作業を行い、半裁の終了した遺構から順次写真撮影、図面作成作業を行った。22日からSF1及びⅡ層を重機で除去し、Ⅲ層上面で遺構検出作業を行った。
- 11月:9日に1地点1面目の遺構完掘写真撮影を行った。12日に1地点Ⅲ層掘削範囲の磁気探査を行い、13日からⅢ層の掘削を開始した。平行して1地点北東部拡張区の遺構掘削作業も行った。30日からは2地点の表土掘削を開始した。
- 12月:1地点Ⅲ層の掘削作業を終了し、2面目の遺構検出作業を行う。グスク時代のピットを確認した。10日に1地点2面目の遺構検出写真撮影を行った。11日から遺構掘削を開始し、20日には1地点2面目の遺構完掘写真撮影を行う。2地点は17日で重機掘削作業を終了し、20日から遺構検出作業を開始し、年内の作業を終了した。

平成25年

- 1月:7日より調査再開する。2地点の遺構検出作業を行い、道跡(SF1)の続きや柱穴、溝などを検出した。16日に2地点の遺構検出写真撮影を行い、23日から遺構掘削作業を行った。30日に陶磁器や位牌、ガラス瓶などを一括埋納した土坑(SK334)を検出した。1地点は17日から補足調査を行った。1地点南壁沿い及び南北方向に下層確認トレンチの調査、井戸の断割及び記録作業を行った。
- 2月:5日に2地点の遺構完掘写真撮影を行う。その後井戸の断割及び記録作業を行った。7日からSK334の写真撮影及び写真測量作業を行い、位牌の取り上げ作業を行った。13日にすべての調査を終了し、15日に現場撤収をもって調査完了となった。

XII 地区

発掘作業は平成25年9月12日から平成26年2月7日まで行った。調査は、1地点(15-N12・O10～13、22-A10～12・B11～12)、2地点(22-C 9～10・D 8～11・E10)、3地点(22-D12～14・E12～14・F12～13)の3つの地点に分けて実施した。調査面積は4,000㎡である。経過の概略を以下に記す。

平成25年

- 8月:28日から基準点移動及び調査区設定を行い、同時に調査区内に掛かる樹木の伐採作業にも着手した。
- 9月:6日からは1地点の磁気探査に着手し、12日から表土掘削を開始した。磁気探査で異常はなく、24日より遺構検出作業に着手した。
- 10月:2日に1地点の遺構検出写真撮影を行った。遺構はピット・土坑・溝等を確認した。3日から遺構掘削を開始し、22日に遺構完掘写真撮影を行った。その後、調査区中央部で補足調査(地山確認)を行った。2地点は8日から磁気探査に着手し、16日から表土掘削を開始した。磁気探査では異常はなく、25日から遺構検出作業を開始した。
- 11月:6日に2地点1面目の遺構検出写真撮影を行った。遺構はピット・土坑・溝・防空壕跡(SX6)等を確認した。19日に2地点1面目の遺構完掘写真撮影を行った。その後、20日から2地点Ⅲ層の

確認トレンチ掘削を行い、26日から2地点Ⅲ層の掘削を開始した。28日からは2面目の遺構検出作業を開始し、グスク時代のピット群を確認した。

12月：3日に2地点2面目の遺構検出写真撮影を行った。4日から遺構掘削作業を開始した。3地点は3日から磁気探査を実施し、16日から表土掘削を行った。25日に2地点2面目の遺構完掘写真撮影を行い、年内の作業を終了した。

平成26年

1月：6日から調査を再開する。2地点の補足調査として北壁沿いに確認トレンチ掘削、井戸の断割を行った。3地点の遺構検出作業を開始し、17日に3地点の遺構検出写真撮影を行った。29日には3地点の遺構完掘写真撮影を行った。

2月：3日から井戸の断割と調査区の北西部の補足調査（地山確認）を行い、7日にすべての調査を終了した。14日に現場撤収をもって調査完了となった。

第4節 資料整理の経過

資料整理は平成25年度から実施した。まず出土遺物の洗浄から始め、注記等を中心に進めた。続いて平成26年度より、遺物の分類、接合作業、実測用遺物の抜出しを行い、平成27～28年度に実測図の作成、トレース、写真撮影等を行った。これらの作業と並行して、遺構図等のトレースを進めた後、発掘現場で撮影した写真と併せてレイアウト作成を行った。本報告書で報告体対象となるX～XII地区については、発掘調査によって見つかった遺構数も多く、また密な箇所も多かったため、他の遺構との関連に注意しながら検討する必要がある。また、遺構とともに、出土した遺物の量も膨大に及んだため、整理には多くの時間を要した。

平成28年度は、原稿執筆及び報告書全体のレイアウトを完成させた後に、指名競争入札により落札した印刷業者と契約を行い、本調査報告書を刊行した。



遺跡遠景 南東から（平成20年度）



X地区遠景 西から（平成20年度）



磁気探査状況（X地区）

図版1 発掘調査・資料整理状況1



表土掘削状況（XI地区）



遺構検出作業 (X 地区)



高所作業車による撮影 (XI 地区)



遺構掘削作業 (XII 地区)



遺構掘削作業 (XI 地区)



井戸断割状況 (XII 地区)



確認トレンチ掘削作業 (XI 地区)



侵食防止剤吹付け作業 (平成 24 年度)
図版 2 発掘調査・資料整理状況 2



資料整理・報告書作成 (平成 28 年度)

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の立地と地理的環境

キャンプ瑞慶覧が所在する宜野湾市は、沖縄本島那覇市から北に12kmの地点にあり、北は北谷町、北東は北中城村、東は中城村、東南は西原町、南は浦添市に隣接し、西は東シナ海に面している。総面積は、19.80km²で、東西に約6.1km、南北に約5.3kmとやや長方形をなしている。

宜野湾市の地形は、海岸から内陸部に向かって雛壇状を呈しており、標高3～30mの海岸低地（第1面）、標高30～40mの石灰岩段丘（第2面）、標高50～90mの石灰岩段丘（第3面）、標高90m以上の高位段丘（第4面）の4つの海岸段丘から形成されている。

宜野湾市内の河川は、浦添市・西原町との境界に比屋良川、北谷町・北中城村・中城村との境界に普天間川がある。普天間川は、流域面積9.1km²、流路延長8kmの2級河川である。最上流部は隣接する中城村北上原の標高130～140m付近の島尻層群からなる丘陵地帯にあり、中城村登又まで北北東方向に伸び北中城村安谷屋で北西方向へ大きく蛇行し、普天間の北側を通り北谷町北前の海岸低地へ流れている。

普天間の地理的環境 キャンプ瑞慶覧病院地区は宜野湾市字普天間に所在する。普天間は宜野湾市の北東側にあり、地形的には第3面に当たる標高50～90mの段丘上に位置する。北側は普天間川に接しており、普天間川の侵食による琉球石灰岩丘陵が連なる。

調査区は、北側にフィールーやグスクンニーとよばれる丘陵を後背とした標高約55m～64mの台地上にあり、東側から西側へ若干傾斜する地形を呈する。この台地上には、普天間古集落遺跡などの遺跡が広がる。基盤を構成するのは琉球石灰岩であり、その下位にはクチャと呼ばれる泥岩などから成る島尻層群が堆積している。表層の琉球石灰岩は透水性が高いため雨水は地中へ浸透し、下層の不透水層である島尻層のクチャ面でとめられ、その境界から湧水として湧き出すとともに、雨水や地下水は琉球石灰岩を溶かし鍾乳洞を形成する。普天間が所在する第3面段丘には洞穴と湧泉が点在している。普天間には普天満宮洞穴や普天間第1洞穴、下原洞穴があり、なかでも普天満宮洞穴は拝所として有名である。また西側に隣接する旧キャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区にあたる喜友名には、国の重要文化財にも指定されている喜友名泉「チュンナガー」をはじめ湧水群が存在し、喜友名部落の水道源として利用された。

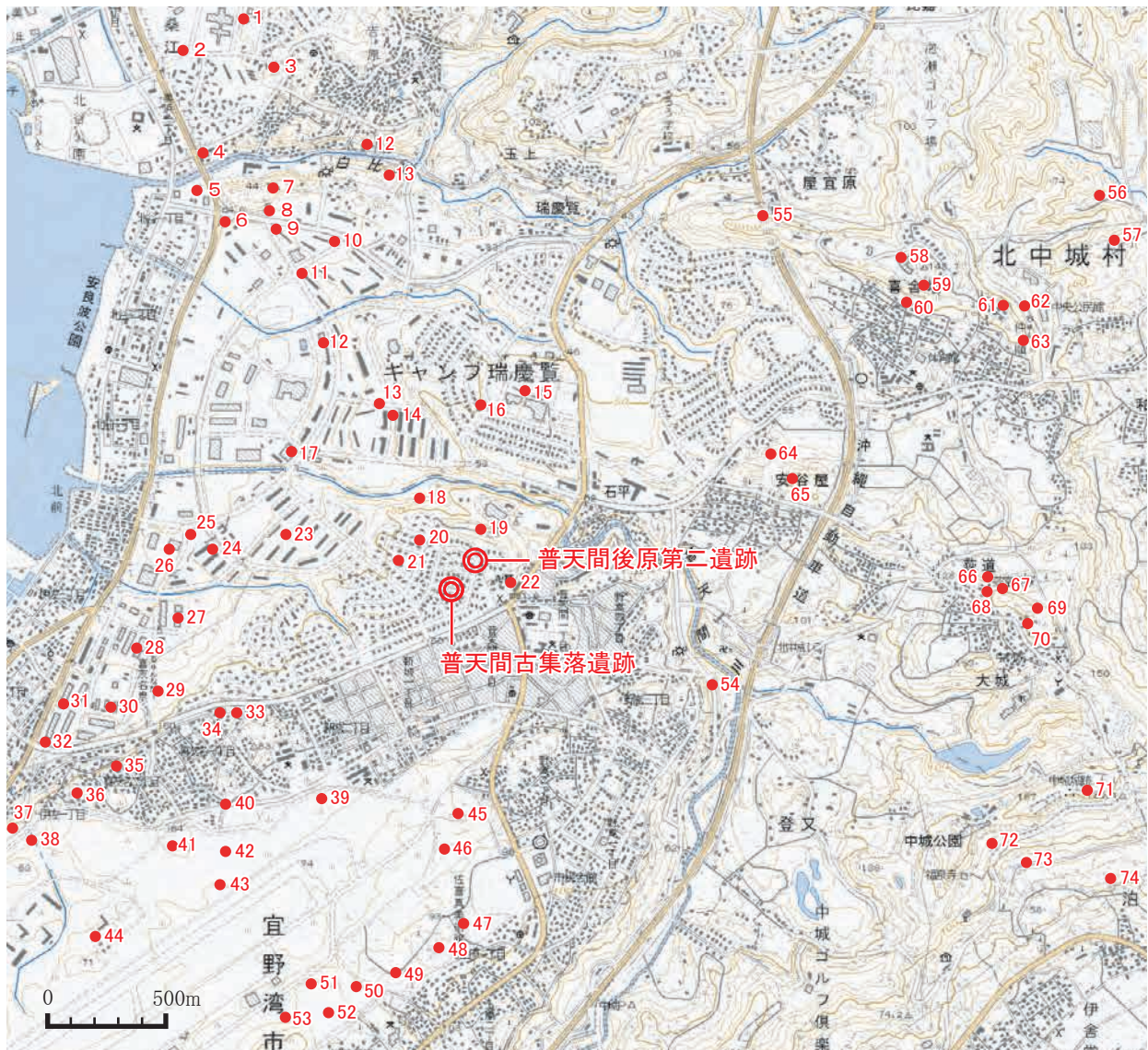
窪地について これまでの調査により、かつての旧地形は窪地が多くあったことがわかっている。これらは雨水が地下へ浸透する過程で石灰岩を溶かすことで形成されるもので、鍾乳洞の天井が陥没して形成された陥没ドリネによる場合もある。この窪地には暗褐色～黒褐色土の堆積層が確認されており、植物珪酸体分析ではイネ属の機動細胞珪酸体が見られたことから、グスク時代以後の農耕に関連して堆積した可能性がある。普天間においては、まず縄文時代の人々の生活の痕跡が確認され、グスク時代には平坦部や谷状の窪地を利用した集落が展開していた。その後は人々の生活の痕跡は一旦途絶えるが、近世～近代には普天間古集落が形成されるとともに、耕作地としても利用された。その後は瑞慶覧基地の造成により窪地は改変され、失われている。

第2節 歴史的環境

普天間古集落遺跡が所在する字普天間は、当初は中城間切であったが、1671年（康熙10年）に宜野湾間切を新設する際に宜野湾間切に編入された。文献『絵図郷村帳』には「寺ふてま村」の名があり、普天間には琉球八社の一つである普天満宮及び神宮寺が所在し、古くから集落の中心であった。琉球王国時代には国王も普天満宮を参詣する行事があり、参道の松並木（宜野湾並松）は1932年に国の天然記念物に指定された。古い集落は現在の普天間小学校付近と普天満宮西側にあったとされている。

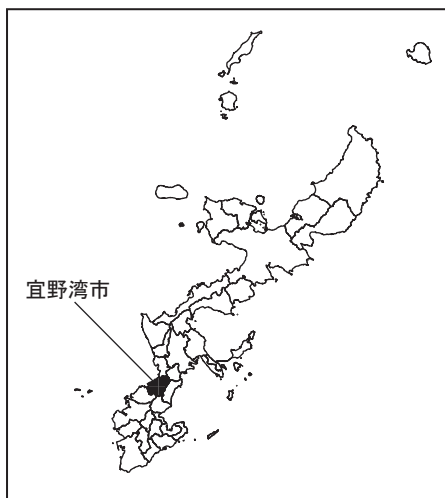


第1図 沖縄本島の位置



この背景地図データは、国土地理院の電子国土 Web システムから配信されたものである。

〈周辺遺跡の凡例〉



- | | | |
|-------------------|-----------------|----------------|
| 1. 伊地差久原古墓 | 27. 喜友名下原第三遺跡 | 53. 赤道渡呂寒原洞穴遺跡 |
| 2. 前原古島 B 遺跡 | 28. 伊佐後原第二遺跡 | 54. 野嵩ウガンスカタ遺跡 |
| 3. 前原古墓群 | 29. 喜友名下原第一遺跡 | 55. ヒニグスク |
| 4. 池グスク | 30. 伊佐後原第一遺跡 | 56. 前田原 B 遺跡 |
| 5. 白比川河口遺物散布地 | 31. 伊佐前原第二遺跡 | 57. 前田原 A 遺跡 |
| 6. 北谷番所址 | 32. 伊佐前原第一遺跡 | 58. 甲斐川原遺跡 |
| 7. 北谷城遺跡群 | 33. 喜友名貝塚 | 59. 喜舎場上原遺物散布地 |
| 8. 北谷城第7遺跡 | 34. 喜友名グスク遺跡 | 60. 喜舎場御嶽遺物散布地 |
| 9. 塩川原遺跡 | 35. 喜友名前原第一遺跡 | 61. 仲順原貝塚 |
| 10. 玉代勢原遺跡 | 36. 伊佐上原遺跡 E 地点 | 62. 仲順原遺跡 |
| 11. 長老山遺物散布地 | 37. 大山岳之佐久原第三遺跡 | 63. 仲順原遺物散布地 |
| 12. 東表原遺跡 | 38. 大山岳之佐久原第一遺跡 | 64. 若松遺跡 |
| 13. 大道原 A 遺跡 | 39. 上原瀨原遺跡 | 65. 安谷屋グスク |
| 14. 大道原 B 遺跡 | 40. 喜友名東原ヌバタギ遺跡 | 66. 荻堂貝塚 |
| 15. 伊波川原遺跡 | 41. 喜友名前原第三遺跡 | 67. 大城グスク |
| 16. 横嵩原遺跡 | 42. 喜友名東原第三遺跡 | 68. 荻道遺跡 |
| 17. 稲千原遺跡 | 43. 喜友名東原第二遺跡 | 69. ミーグスク |
| 18. 普天間グスクンニー遺跡 | 44. 神山黒数原古墓群 | 70. 大城遺跡 |
| 19. 普天間フィールー丘陵古墓群 | 45. 野嵩タタ原遺跡 | 71. 中城城跡 |
| 20. 普天間下原第二遺跡 | 46. 新城東原遺跡 | 72. 古島原遺跡 |
| 21. 普天間石川原遺跡 | 47. 上原同原遺跡 | 73. 古島原散布地 |
| 22. 普天満宮洞穴遺跡 | 48. 上原仲毛原遺跡 | 74. 泊原散布地 |
| 23. 安仁屋トゥンヤマ遺跡 | 49. 仲原同原遺跡 | |
| 24. 新城下原遺跡 | 50. 赤道シキロー流域古墓群 | |
| 25. 新城下原第二遺跡 | 51. 赤道渡呂寒原古墓群 | |
| 26. 安仁屋原遺跡 | 52. 赤道渡呂寒原屋取古集落 | |

第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡

戦前の普天間には、中頭地方事務所、中頭教育会館、農事試験場、郵便局等の官公庁が多くあった。そして首里・那覇方面と中北部を結ぶ普天間街道（宜野湾並松街道）や中城村瑞慶覧方面から普天間を通り、伊佐・大山までおりていく県道など、主要地方道路が交差する交通の要所地でもあった。集落内には、サトウキビ運搬のためのトロッキ軌道が敷かれ、沖縄軽便鉄道大山駅への客馬車が往来していた。交通の要所であったため、街道沿いには客馬車や荷馬車を休ませる馬車宿のほかにも商店、旅館、飲食店、写真店、理髪店、風呂屋、歯医者等が並び商業が発達し、中部における政治経済の中心地となっていた。

戦後はキャンプ瑞慶覧の建設に伴い、集落の北側半分は強制接収された。宜野湾並松も沖縄戦や松食い虫の被害により失われ、旧集落の面影は僅かに普天満宮と神宮寺が残っているだけである。基地接収に伴い、普天間集落は南東側に移動し、戦後復興とともに学校や商店街が建設された。現在の普天間は、那覇～沖縄市を結ぶ国道330号と宜野湾市伊佐～北中城村渡口を結ぶ県道81号の三叉路を中心として市街地が形成されている。

これまでの発掘調査 キャンプ瑞慶覧内病院地区では、米海軍病院建設に伴う発掘調査が県教委と宜野湾市教委により実施された。調査は県教委と宜野湾市教委とで調査区を分割し、県教委の調査範囲には、普天間古集落遺跡をはじめ、普天間後原第二遺跡、普天間下原第二遺跡、普天間石川原遺跡が広がる。これまでの調査で、縄文時代からグスク時代、近世～近代までの遺構や遺物が得られている。縄文時代の遺構は少なく、疎らで局地的に検出される。グスク時代の遺構は普天間後原第二遺跡の範囲を中心に広がっている。近世～近代の遺構が最も多く、普天間古集落に関連する遺構が調査区全体で検出された。集落を方形状に区画する溝状の遺構や道跡とともに、建物跡や井戸などの遺構が検出され、これらは古集落の様相を窺えるものである。

周辺の遺跡 本調査区周辺の遺跡について、普天満宮洞穴遺跡、普天間グスクニー遺跡、普天間フィール丘陵古墓群、普天間稲嶺屋取古集落、普天間グスクニー古墓群などが確認されている。普天間が所在する台地上から西側に目を向けると喜友名貝塚や喜友名グスクがあり、平成8～9年の調査では縄文時代からグスク時代、近世～近代の遺構や遺物が確認されている。さらに下位の石灰岩段丘や海岸低地には伊佐前原第一遺跡、新城下原第二遺跡などの遺跡がある。



図版3 キャンプ瑞慶覧内病院地区遺跡範囲図

第3章 調査の方法と成果

第1節 調査の方法

発掘区とグリッドの設定 調査範囲は、沖縄防衛局から提示された病院移設計画に伴う工事範囲に基づき、埋蔵文化財に影響を及ぼす範囲を特定し調査区を設定したもので、県教委は普天間古集落遺跡を中心とした範囲を調査対象とした。平成24年度はX地区及びXI地区、平成25年度はXII地区の発掘調査を実施した。調査面積が広大なことや、工事と発掘調査が同時並行で進められていたことから、調査区を便宜的に分割して調査を行った。X地区は、1～5地点、XI地区は1～2地点、XII地区については1～3地点に分割した。沖縄防衛局及び工事請負業者との調整の上、調査が完了した範囲から沖縄防衛局へ引渡しを行った。

グリッドは、試掘調査時に当てはめたものを使用しており、基本座標（X：31,000、Y：26,500 日本測地系）を起点に第I区画、第II区画の2段階に分け、第I区画を300mメッシュ、第II区画を20mメッシュで区切っている。第I区画はキャンプ瑞慶覧の宜野湾市区域を1～33に分割設定し、第II区画はさらに細かく東から西へ1～15、北から南へA～Oを設定している。グリッドの名称は、第I区画、第II区画を組合せ、15-A1、16-F14等としている（沖縄県立埋蔵文化財センター2015a）。今回調査の第I区画は14及び15、22である。

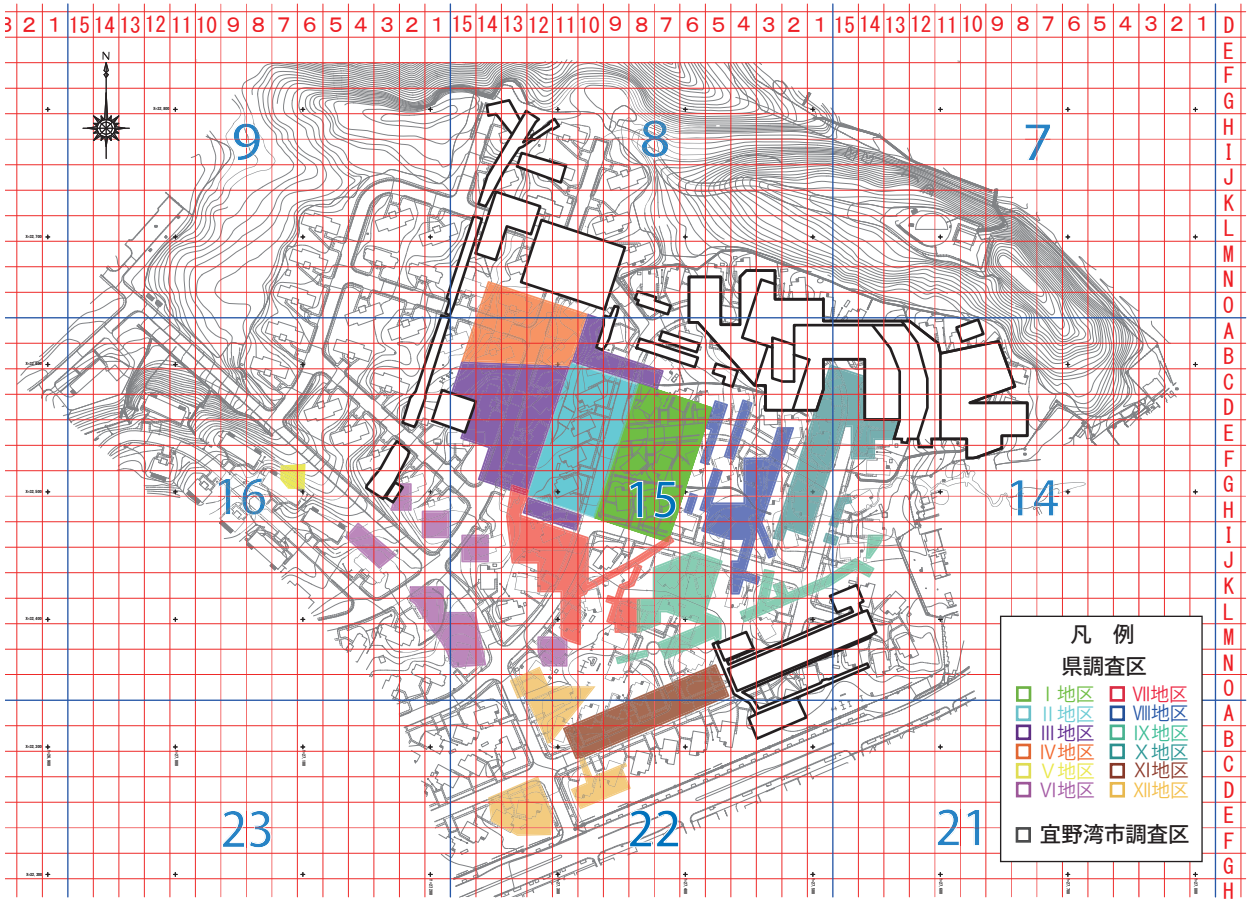
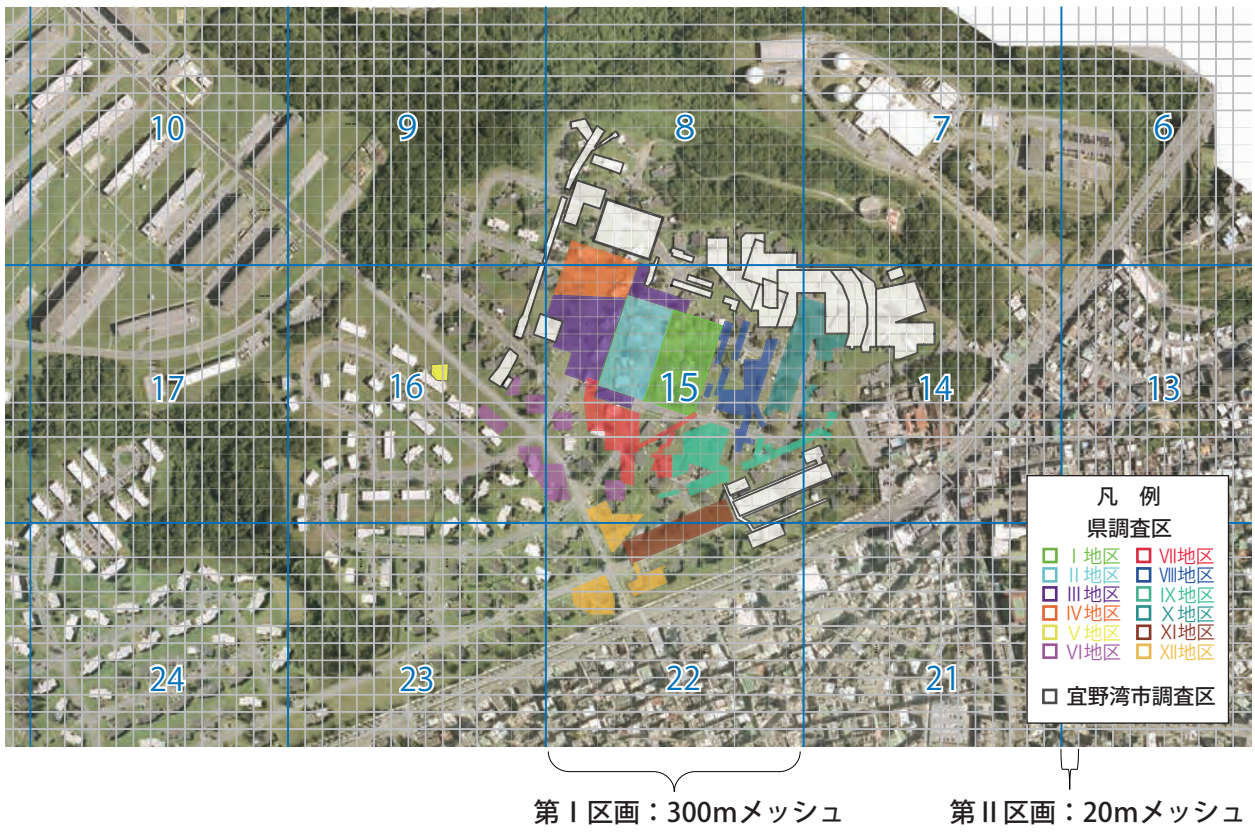
表土掘削と遺構検出 調査は、初めに調査区の位置出しを行うとともに、調査区にかかる樹木の伐採を行った。次に磁気探査（水平探査）を実施した結果、調査範囲全域に異常点が確認され、確認探査はX・XI・XII地区を合わせて937点にも及んだ。磁気探査により不発弾など異常が無いことを確認し、表土掘削を実施した。表土掘削は、重機により行い、攪乱土、造成土及び近世～近代の遺物包含層（II層）までを掘削した。

表土掘削後は、作業員の手作業による包含層掘削と遺構検出を行った。多くは地山面で遺構が検出されたが、XI地区1地点では、地山面より上で近代の道跡が検出されたため、調査終了後に道跡とその下のII層を重機により掘削した。さらに、XI地区1地点やXII地区2地点ではグスク時代の包含層が厚く堆積し、その下にグスク時代の遺構が検出されたため、遺構検出面が複数面となる地点もあった。表土掘削時には、遺構検出面を確認するためのサブトレンチを設定した。

発掘作業と写真撮影 本遺跡では検出された遺構数が多かったため、遺構記号は、『発掘調査のてびき』のものを便宜的に当てはめ、地区一種別毎に通し番号を付し、X地区-SP1等とした。遺構番号は、基本的に固定番号方式としたが、本報告書作成の便宜上、建物跡や井戸など遺構番号をふり直したのものもある。遺構半裁時に遺構ではないと判断したものは欠番とした。また、近世～近代の遺構のまとまりを示す区画番号は、調査終了後の資料整理時に付したものである。遺構個々の調査は、半裁や4分割による調査を行った。井戸や大型土坑など人手による掘削が困難なものは、重機による半裁を行った。検出時及び完掘状況の平面図作成は測量機器を用いて行い、断面図作成は基本的に人手により行った。効率が良いと考えられる場合は、写真測量も実施した。各地点の検出面毎に、高所作業車による遺構検出状況と完掘状況の写真撮影を行っている。

遺構の調査終了後には、補足調査としてのトレンチを調査区中央や壁面沿いに設定し、包含層の堆積状況や地山の確認を行った。XI地区1地点やXII地区2地点の補足調査時には深さが2mを超えたため、のり面あるいは段掘りにより掘削するとともに、安全対策を行った。

写真撮影は遺構個々については、半裁状況など状況に応じて、デジタルカメラと35mmフィルムカメラにより白黒フィルム・カラーリバーサルフィルムで撮影した。高所作業車を使用した遺構検出状況・完掘状況の写真撮影時には中判フィルムカメラも用いた。なお、本報告書ではデジタルカメラによる写真を使用している。



第3図 グリッド配置図

第2節 基本層序

平成20～25年度までの調査成果を踏まえ、瑞慶覧病院地区の基本層序は以下のように整理される。この基本層序を踏まえ、Ⅹ～Ⅻ地区の土層堆積状況について報告する。

層序

I層：表土・造成土。沖縄戦中に米軍に接收され、造成されたときの層。調査区全体に広がる。層中に土器、石器、中国産陶磁器、沖縄産陶器等の多種多様な遺物を含む。このことから、普天間ハウジング建築の際に敷地内から土砂が集められ造成されたものと考えられる。

II層：暗褐色（10YR3/4）又は褐色（10YR4/4）砂質土で、米軍接收以前の耕作土及び地表面と思われる。近世～近代の遺物を包含し、調査区全体に広がる。数層に細分可能である。層中に沖縄産陶器を中心として、本土産陶磁器、中国産陶磁器等を含む。この層の中、又はV層（島尻マージ）及びⅢ層との境に近世～近代の遺構が確認できる。土色が灰オリーブ色及び暗オリーブ色の箇所もある。

Ⅲ層：暗褐色～黒褐色砂質シルト層で、迫地地形に該当する箇所に部分的に分布する。この層の中、又はV層（島尻マージ）及びIV層との境にグスク時代の遺構が確認できる。出土遺物からグスク時代の堆積層と思われる。Ⅲ層はa～c層の3つに大別できる。

Ⅲ-a層：黒褐色砂質シルト（10YR3/2）である。数層に細分可能で、上方から下方へと粘りが強くなり、中に3～5mmの炭化物、焼土、黄褐色土粒を含む。一部では水分、マンガン及び鉄分の影響により色調が変化している。全体的に根跡若しくは貫入があり、その中には褐灰色の土が入る。遺物はグスク土器、石器を確認している。

Ⅲ-b層：黒褐色砂質シルト（10YR2/3）で、Ⅲ-a層とⅢ-c層より明るく、区別ができる。3～5mmの炭化物、焼土、黄褐色土粒を含む。Ⅲ-a層より粘性が強い。

Ⅲ-c層：暗褐色砂質シルト（10YR3/4）である。上方から下方へと粘りが強くなると共に砂質も強くなる。層中にマンガンを含む。根跡若しくは貫入に入っている土は、上方は褐灰色と黄褐色が混るが、下方にいくに従い黄褐色が強くなり、最後は黄褐色土のみとなる。

IV層：褐色シルト（10YR4/6）又は暗褐色シルト（10YR3/4）で窪地の底部分に分布する。粘質が強い層と砂質が強い層に分けられる。層中にマンガンを含む。Ⅹ・Ⅻ地区で確認された層で、谷状に窪む地形において、この層の上面にグスク時代の遺構が検出されている。

V層：地山。褐色シルト（10YR4/4）又は暗褐色シルト（10YR3/4）で、粘質が強い層と砂質が強い層に分けることができる。全体的にマンガンを含む。基盤の琉球石灰岩に接する箇所は、他の部分より黒味が強く、暗褐色を呈する。多くの遺構は、I～Ⅲ層とこの層の境で確認されている。

VI層：岩盤。

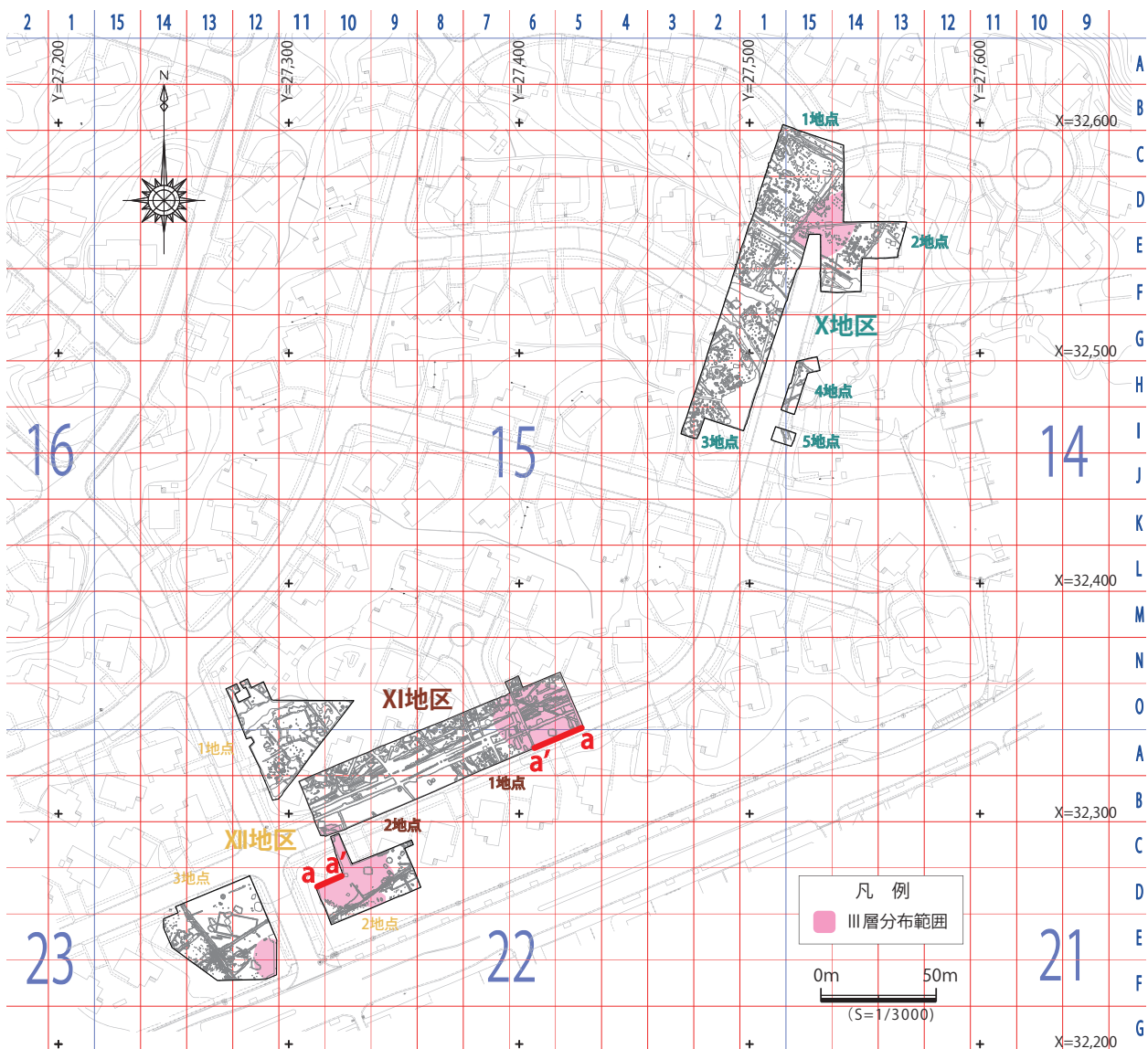
X～XII 地区土層堆積状況

土層堆積状況について、地区毎の概要を以下に示す。ここでは、現場で作成した壁面図のうち、基本層序の堆積状況が確認できたXI地区1地点南壁及びXII地区2地点北壁の壁面図を報告する(第5図)。

X地区 調査区全体はほぼ平坦な地形である。II層は1～5地点の調査区全体に広がる。III層はグスク時代の掘立柱建物跡が検出される1地点～3地点北側の一部で確認された。層厚は10～20cmである。

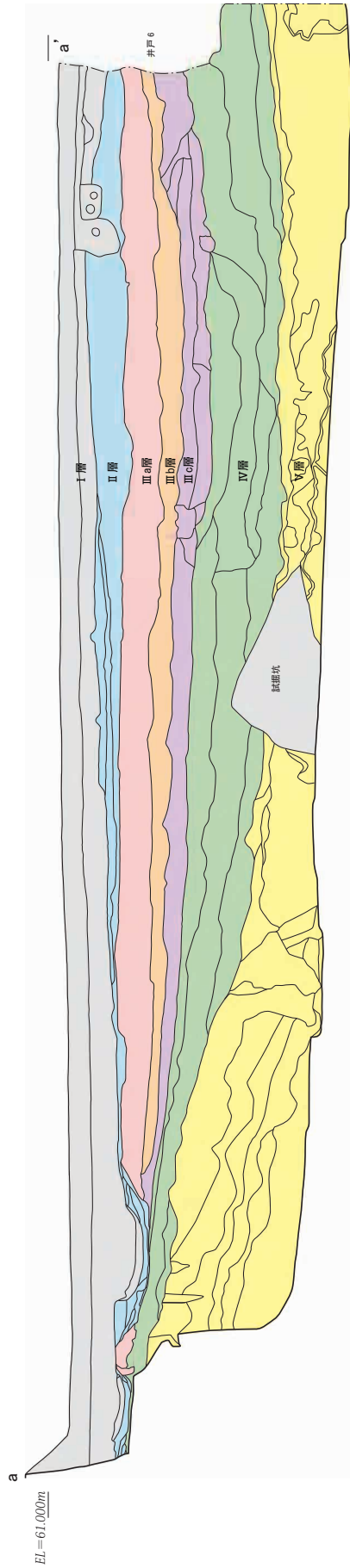
XI地区 1地点東側は南東側へ向かって谷状に窪む旧地形であり、1地点南壁でII～IV層が厚く堆積している状況が確認された。II層は60cm、III層は130cm堆積している。IV層はXI地区とXII地区で確認された層で、谷底部分で120cm堆積している。2地点は南西側にやや傾斜し、南壁西側でIII層が10cm～20cm堆積している。

XII地区 1地点及び3地点北～南西側はほぼ平坦な地形である。2地点は北側～中央にかけて谷状に窪む地形で、そこにII～IV層が厚く堆積している。北壁でII層が150cm、III層が80cm、IV層は60cmの層厚を確認した。IV層上面にて、グスク時代の遺構が検出された。また、3地点は南東側のみ谷状に窪む地形で、II～III層が厚く堆積している。II層が250cm、III層が80cm堆積している。

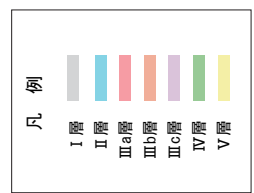
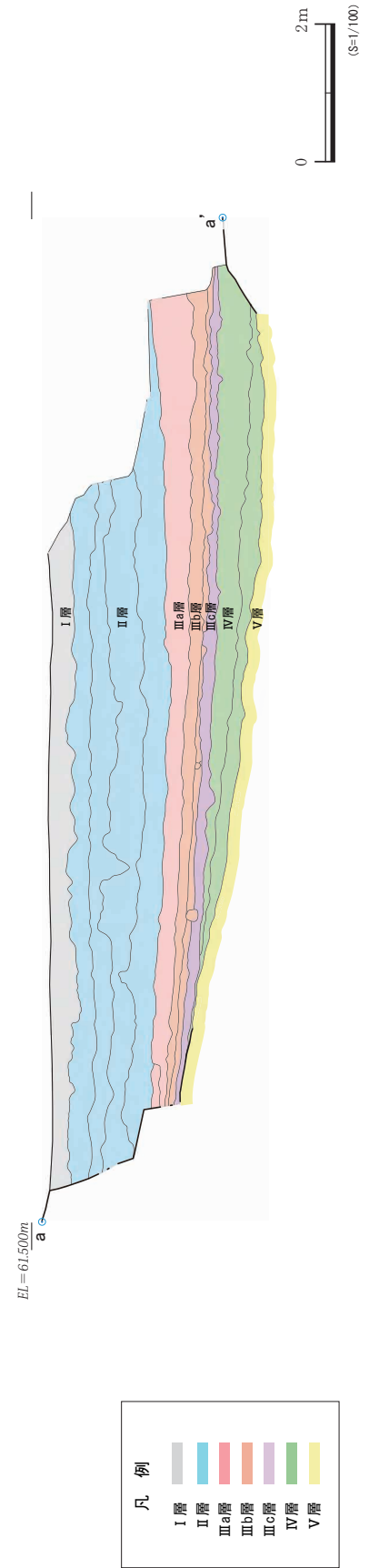


第4図 包含層(III層)平面分布図

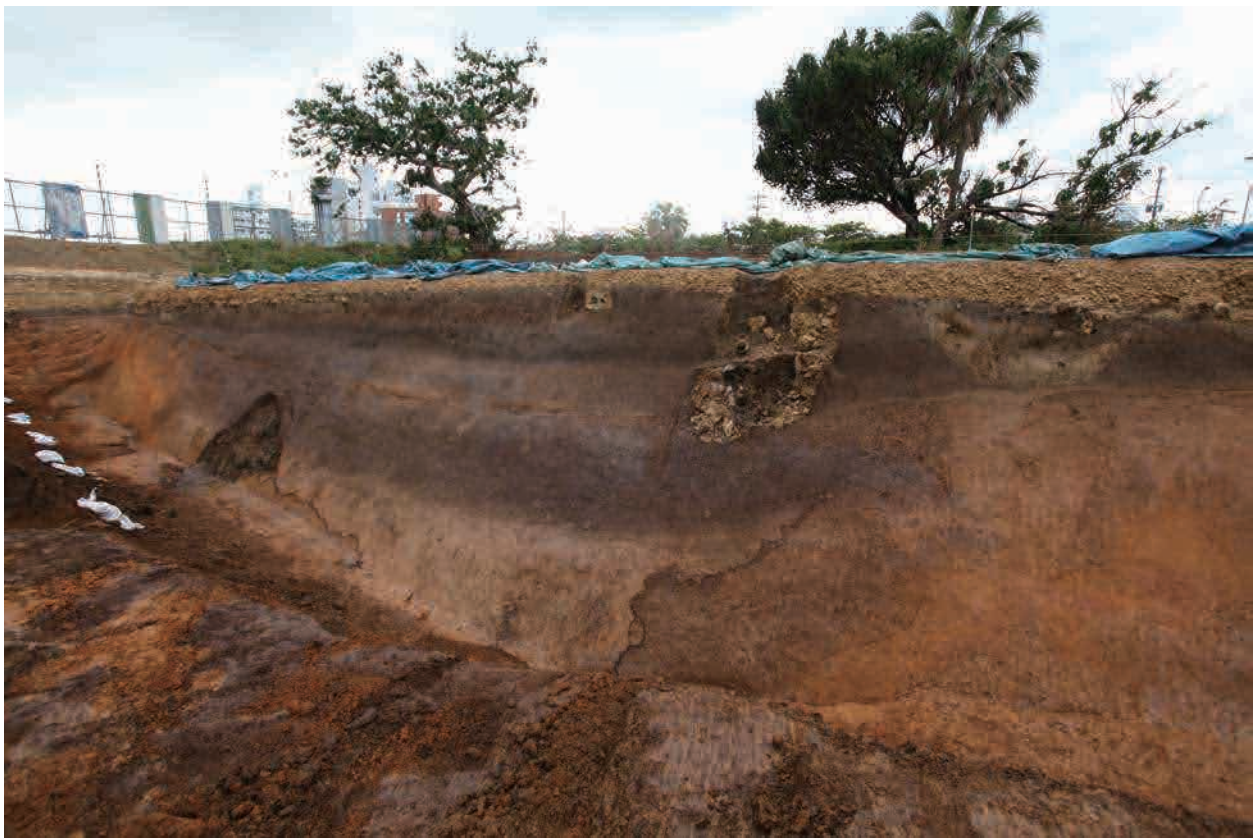
XI 地区1地点南壁



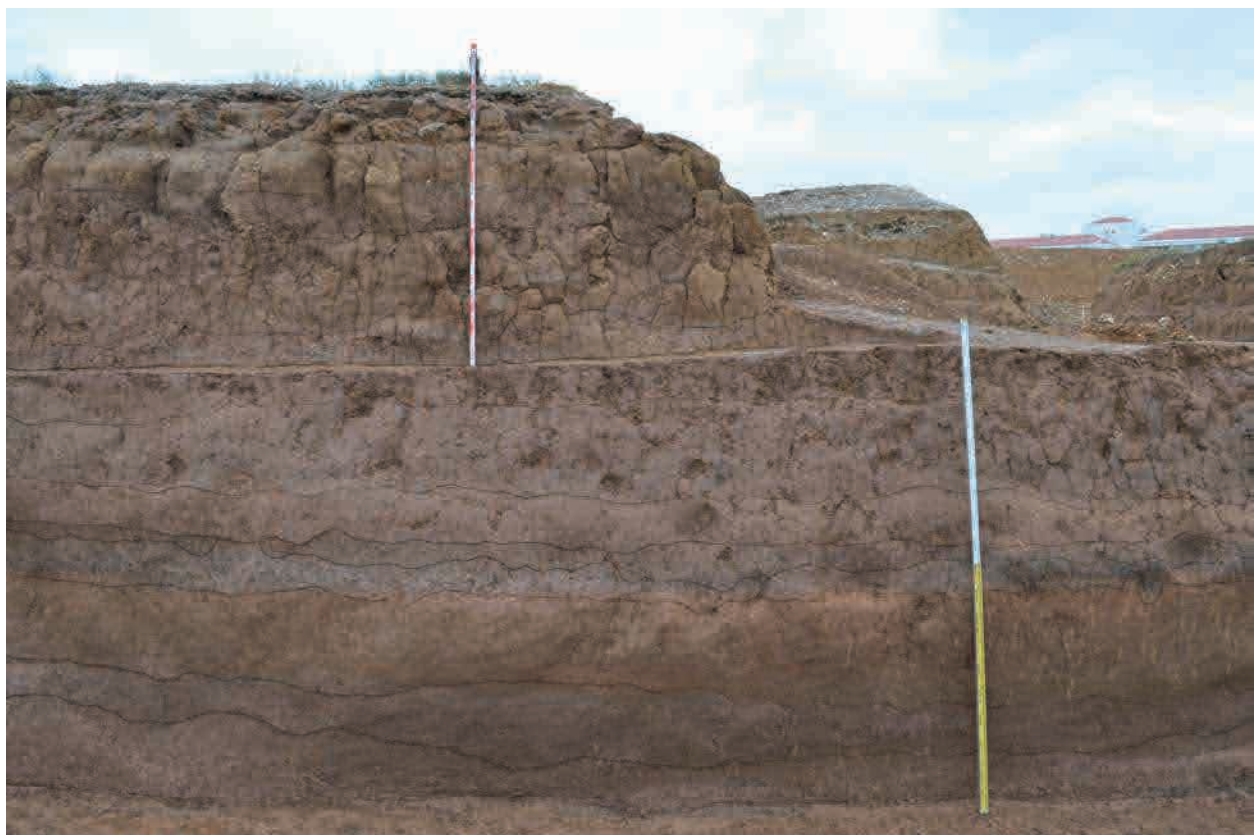
XII 地区2地点北壁



第5図 調査区壁面図 (XI・XII地区)

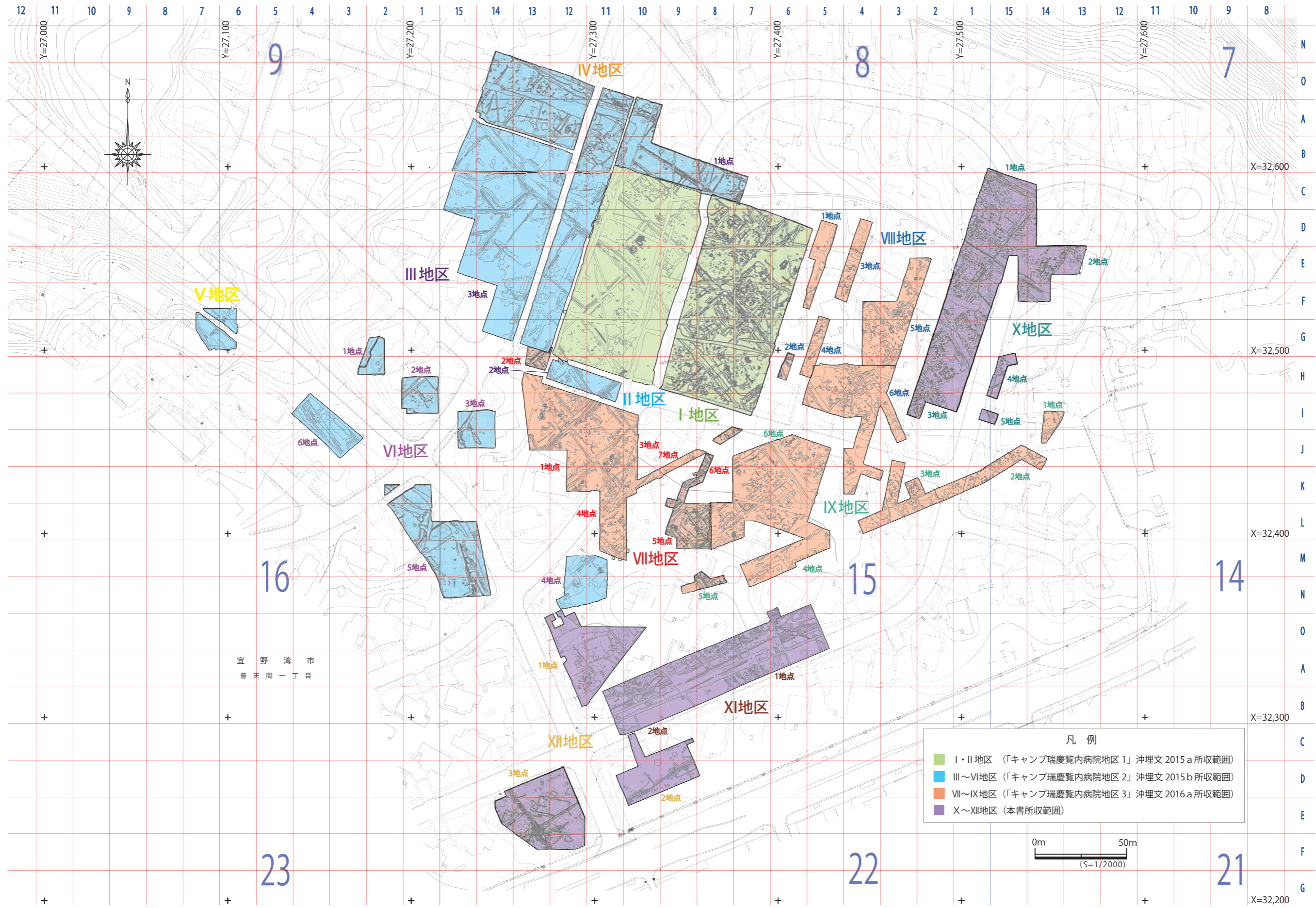


XI 地区 1 地点南壁 北西から

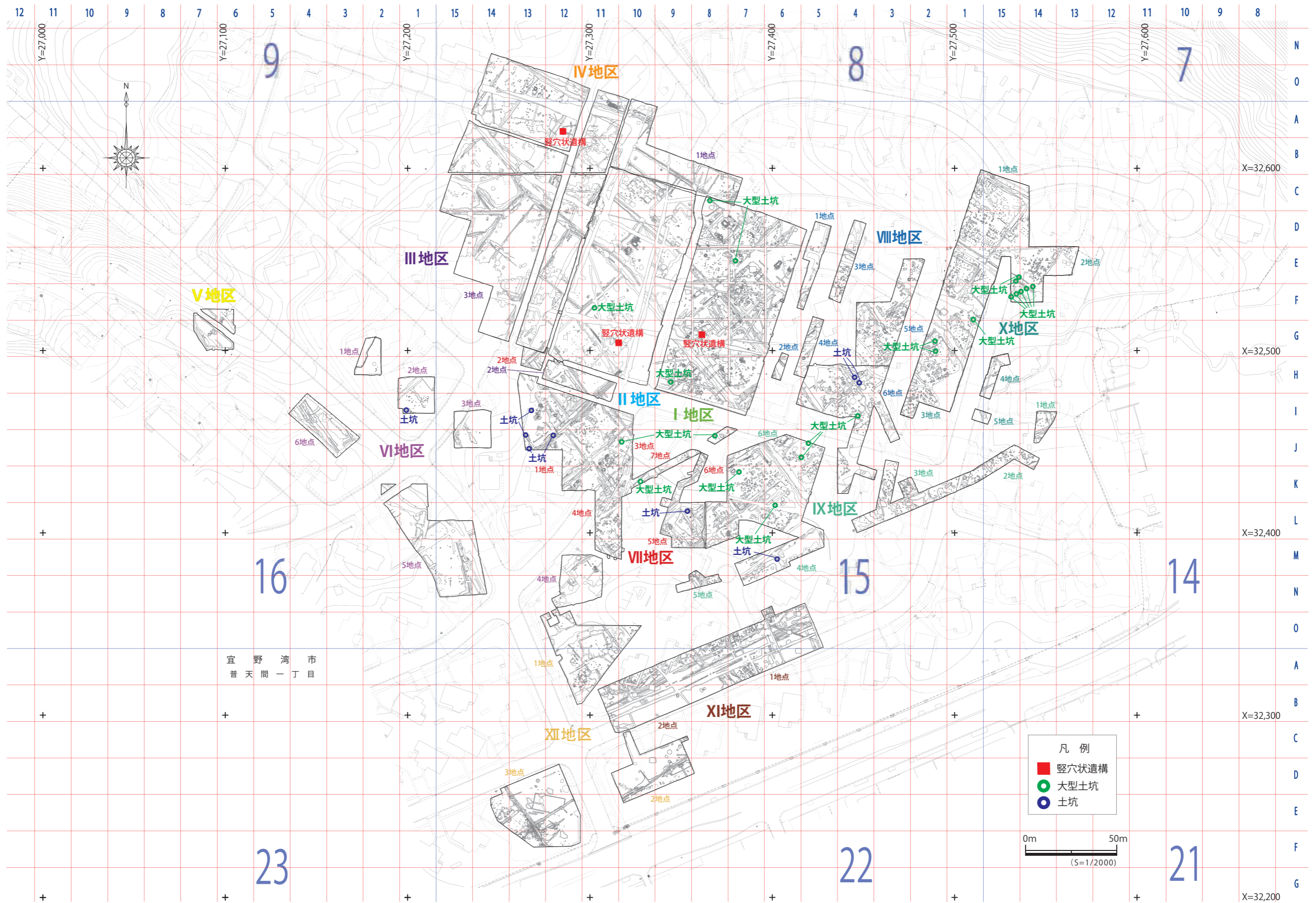


XII 地区 2 地点北壁 南から

図版4 調査区壁面 (XI・XII 地区)



第6図 調査区（I～XII地区）全体図1 所収範囲



第7図 調査区（I～XII地区）全体図2 縄文時代の遺構